

## 入選

### しんせつなおばあさん

福岡県 行橋小学校 2年 前田 花音

わたしが、かぞくでりょこうにいったときに、でん車にのりました。でん車の中には、人がたくさんいたのですわれませんでした。あいているせきをさがして歩いていると、おばあさんが、

「どうぞすわってください。」と言いました。おかあさんが、

「だいじょうぶですよ。」と言うと、おばあさんが、

「わたしは、すぐおりるのですわってください。」

と言いました。そしておかあさんが、

「すみません、ありがとうございます。」

と言ってわたしは、いすにすわりました。わたしは、そのとき、おばあさんもお年よりだから、立ったままだとつかれるんじゃないかなと思いました。でも、しんせつで、とてもやさしいおばあさんのことばが、うれしかったです。

わたしも、おばあさんのように、しんせつなこうどうができるかなと考えていると、あるできごとを思い出しました。わたしが一年生のとき、おともだちといっしょにかえっていると、前を歩いていた男の子がころんでケガをしてしまいました。わたしはそのとき、ばんそうこうをもっていることを思い出しました。男の子に、

「わたし、ばんそうこうもっているよ。女の子だけどいい？」

と聞くと、

「うん。いいよ。ありがとう。」

と言ったので、わたしはばんそうこうをあげました。そのとき、わたしはドキドキしていたけれど、ゆうきを出してこえをかけたことを今でもおぼえています。そして、男の子にありがとうと言われたとき、とてもうれしくて、こえをかけてよかったなと思いました。

しんせつにされると、うれしくて、こころがあたたかくなります。また、しんせつにされたとき、「ありがとう」というかんしゃのことばが生まれます。しんせつは、してもされてもいい気持ちになります。

わたしは、これからも、こまっている人がいたら、こえをかけて、たすけてあげたいと思います。そして、おばあさんのように、じぶんのことよりも、まわりの人のことを考えたこうどうができたらいいなと思います。しんせつにされた人がまた人にしんせつにして、みんながしんせつになり、せかいじゅうの人にしんせつのが広がるとういいなと思います。